

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012 が始まります

2012 年 6 月
大地の芸術祭実行委員会

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012」が7月29日(日)～9月17日(月・祝)までの51日間開催されます。この夏は、ぜひ越後妻有でお過ごしください。

●大地の芸術祭とは

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、越後妻有地域の里山を舞台に3年に一度開催される世界最大規模の国際芸術祭です。地域に内在するさまざまな価値を、アートを媒介として掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域再生の道筋を築いていくことを目指すことを目的に始まりました。

2000年に第1回展が開催され、その後2003年、2006年、2009年の開催を経て、この夏、第5回展が始まります。



草間彌生「花咲ける妻有」 Photo by Osamu Nakamura



地元住民と作家による作品制作

Photo by Takenori Miyamoto + Hiromi Seno



海外の来訪者と作品管理をする地元のお母さんたち

●第1回展から第4回展までの道のり

大地の芸術祭は、新潟県の施策「ニューにいがた里創プラン」がきっかけで始まりました。新潟県の支援により、合併前の6市町村は「越後妻有アートネックレス整備構想」を策定。この構想に沿って様々な企画を展開しました。それらの取組みの成果の3年に1回の発表の場として大地の芸術祭を実施することとなりました。

第1回展は反対の声の中からのスタートでした。なぜ、税金を福祉や道路の整備などに使わないのか、という地元からの声を受け、作品制作に手を挙げる集落もごくわずか。しかし、作家やサポーターとの交流、大勢の来訪者との交流などにより、回を重ねるごとに参加集落が増加。第1回展では8集落のみの参加でしたが、第4回展では92集落が参加し、大地の芸術祭で地元を盛り上げようという機運が回を重ねるごとに高まっています。

●第5回展の取組み概要

大地の芸術祭は、アート作品を鑑賞するだけのイベントではありません。作品巡りの道中で出会う自然景観、国宝・火焰型土器などの歴史や文化、魚沼産コシヒカリなどの豊かな食。越後妻有にあるこれらの資源全体を見て、体感して、楽しむ「地域全体がアートミュージアム」として位置づけています。

第5回展は、この地域の核としてリニューアルする「越後妻有里山現代美術館[キナーレ]」、震災で倒壊した「オーストラリア・ハウス」の再建、ローカル線の駅周辺にアート作品を設置する「JR 飯山線アートプロジェクト」など、過去の芸術祭以上の斬新な作品や取組みを展開します。

問 大地の芸術祭実行委員会事務局
TEL 025-757-2637
HP <http://www.echigo-tsumari.jp/>



越後妻有の代表的な棚田「星峠の棚田」



越後妻有里山現代美術館としてリニューアルする「キナーレ」

クリスチャン・ボルタンスキー「No Man`s Land」



モニュメント2010 クリスチャン・ボルタンスキー

「PERSONNES」/ グランパレ(パリ) Photo: A. Shiraha

●越後妻有里山現代美術館「キナーレ」
越後妻有交流館キナーレの2階回廊棟を改修し、地域の自然環境や風土をテーマにした作品を展開。レストラン&カフェやミュージアムショップを併設し、越後妻有の魅力を凝縮した美術館が完成する。
第1回目の企画展として展開する、クリスチャン・ボルタンスキーの作品「No Man`s Land」は必見。

2012年の主な作品・プロジェクト



●オーストラリア・ハウス
長野県北部地震で倒壊した日豪交流拠点を、国際コンペで設計デザインを公募し再建する。
(設計デザイン/アンドリュー・バーンズ・アーキテクト)

※そのほか、多彩な作品を約360点ご覧いただけます。